

2020年11月29日 主日礼拝

司式：飯田長老

奏楽：羽倉長老

*以下、太文字の言葉はみんなで声を合わせます。
《神のみ前に近づく》

讃美歌 242-1節(主を待ち望むアドヴェント)

序詞(ヴォタム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。

アーメン。

讃美歌 231-1節(久しく待ちにし)

罪の告白(声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、アドヴェントに入ります。救い主の到来を新たな思いで待ち望むことが出来ますように。主よ、なにごとに於いても、待つことが出来ない私たちの愚かさや弱さを憐れんでください。あせって、自分の考えで先走っては行き詰まり、後悔ばかりの私たちの罪を赦してください。あなたが、私たち一人一人の心の中の奥底まで深く降りて下さることを待つ者でありますように。

「万軍(ばんぐん)の神よ、立ち帰ってください。

天から目を注いでご覧ください。

このぶどうの木を顧みてください。

あなたが右の御手で植えられた株を

ご自分のために強くされた子を。

わたしたちはあなたを離れません。

命を得させ、御名を呼ばせてください。」

(詩編80:15~16、18)

*しばらく黙禱の時をもちます

主よ、私たちの心と体をとらえ、生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 32(キリエ) = 座ったままで

本日の集會 礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・聖歌隊練習

赦しの確認と保証(司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

讃美歌(聖歌隊) 21-229(いま来たりませ)

《神のみ言葉の宣教》

聖書

詩編 12章 1~9節(旧p843)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ルカによる福音書 1章 46~56節(新p101)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り(司式者)

讃美歌 175-1,2節(わが心は)

説教

『詩編⑫ — 世渡り上手?』

祝福の祈り

武田真治牧師

《神への応答》

讃美歌 463-1~3節(わが行くみち)

献金

奉仕者：大野 岡田

とりなしの祈り(司式者)

主の祈り 93-5(ともに祈りましょう)

報告

讃美歌 90-1節(主よ、来たり)

祝祷

武田真治牧師

後奏

報告と退場

受付：東 田嶋 礼拝：坂田長老

お茶の会 当分の間休会です。

＜先週の説教から＞

『黙示録⑨— 神の子の登場』

創世記 3:15 ヨハネ黙示録 12:1~10

黙示録は11章でその前半が終わります。「第七の天使がラッパを吹き、「この世の国は、我らの主とそのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される」という声が響きました。これはメシア=イエス様の再臨の実現を讃美する声です。本来なら、実際の再臨の様子が記されていくはずですが、それはかなり後になってからになります。しばらくは、ヨハネが神様から与えられた他の《幻=預言》が順不同に紹介されます。彼はパトモス島で囚われの身でしたから、神様から様々な幻を与えられたでしょう。その中で重要と思われるものを、実際の再臨の出来事を記す前にまとめて置いたと考えられます。従って、時間的なつながりはなくなります。

この12章は、旧約から続く神の民の歴史と未来を示す箇所です。ここの登場する「女」こそ《神の民》を象徴しています。「女は子(=み子、救い主)を産む痛みと苦しみのため叫んでいた」とは、まさに旧約聖書の歴史をひと言で表現しています。そして「女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた。子は神のもとへ、その玉座へ引き上げられた」はまさにイエス様の誕生と昇天です。ただ、その「女」を亡き者にしようとして付け狙って来た存在があると、それが「竜」だと。この竜は「悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者」と言われています。今の時代は、この竜との戦いの時代なのです。でも、ちゃんと神様は「女」に「神の用意された場所」を備えておられるとありますし、しかも、悪魔は既にイエス様の復活によって、死の恐怖という手段を用いられないという致命傷を与えられている状態なのです。